



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.56

'11 春号

春いちばん。
やわらかな香木の
香りをお届けします。

大宰府にながされた菅原道真の後を追ひ、
主人のもとへ飛んできたという『飛び梅』。
梅栄堂の《飛び梅》は沈香、白檀、丁子、桂皮、木香、
甘松など、贅沢に天然香料を使った高級線香です。
伝統の香りをいまに生かした、
やわらかでコクのある香りをお楽しみください。

飛び梅



● 飛び梅 標準小売価格 3,150円 (本体価格 3,000円)



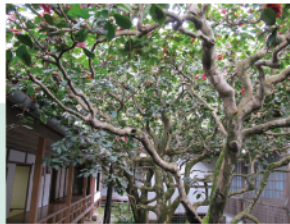
創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁目1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>

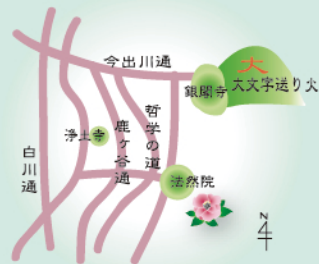


三銘椿▼



門が姿を現し、私たちが静寂の世界へと導きます。法然院の歴史は鎌倉時代、浄土宗の祖、法然上人が弟子の住蓮、安楽とともに「六時礼賛」の修行を勤めた草庵に始まります。その後は荒廃しましたが江戸時代

初期、一六八〇年に知恩院第三十八世の萬無和尚が念仏道場を法然上人ゆかりのこの地に建てることを発願し、現在の法然院が再興されました。法然院の境内はサクラ、フジ、シヤクナゲ、アジサイ、サルスベリなど四季折々の花々で彩られますが、「掃き寄せて椿ばかりや法然院」と先代住職が詠んだように、境内のあちこちにはヤブツバキの老樹が生茂り、「椿の寺」として愛されています。本堂北側の中庭には三銘椿（五色散り椿・貴椿・花笠椿）が整然と植えられ、三月下旬〜四月にかけて可憐な花を咲かせます。また、参道を飾る落ち椿も見事で、静かな山里に華やかな春の訪れ感じをさせてくれます。



観 望 二月下旬〜四月上旬
拝 観 時間 午前六時〜午後四時まで
拝 観 料 は 無 料。
伽 藍 内 特 別 公 開 時 (4月1日〜7日・11月1日〜7日) は 有 料

四季彩々



法然院の椿

参道を飾る落ち椿に風情が漂う

京都三十六峰の一つ、善気山の麓、哲学の道から少し山の方に入ったところに、ひっそりと佇む浄土宗のお寺が法然院です。うっそうとした木立に囲まれた山道を上ると、茅葺屋根の山

本堂には本尊の阿弥陀如来像と法然上人の木像が安置され、方丈には狩野光信筆の襖絵(重文・桃山時代)もあります。本堂、方丈などは年二回、春・秋の特別公開の時期のみ一般公開されます。また境内の墓地には谷崎潤一郎をはじめ、文人・学者の墓が多いことでも知られています。

社長雑感

いい香り、いい気運を

梅栄堂社長 中田信浩

●●●●●●●●●● 新商品に期待をこめて

昨年は米国、欧州とも経済状態は芳しくなく、急なる円高で、輸出を主とする日本経済も、相変わらずの低迷状態が続きました。

そんな中、わが社といたしましては、かねてから何とか新しく気運を変えられるような商品開発を…と企画を練っておりましたが、昨年末、新商品《風水香》を発売する運びとなりました。

●●●●●●●●●● 気持ちのよい環境づくりが基本

「風水」というと、何か少し現実離れしているように感じる方も多いかもしれませんが、監修にあたっていた

だいた風水師 MIREY 氏によると、

「風水とは、いかに気持ちよく暮らしやすい環境を作るか」というための生活技術である」とのこと。家や室内の環境をよい状態に整えることが幸運の第一歩であるというのとはとても理にかなったことといえるかも知れません。そしてその実現のためには、

「いい音楽や、「いい香り」が、暮らしの中でとても大切なアイテムになるのだそうです。「いい香りの漂うところに悪い「気」は存在しない」という氏の考えの下に構想を重ねて、五種の香り《風水香》が誕生いたしました。

●●●●●●●●●● お線香の役割

お線香には仏事のために何よりたいせつな役割がございますが、生活の中に

いい香りをお届けできたら、お線香も

もっと身近なものとして愛していただけるのではないかと考える所存です。今回この《風水香》の香りを創るに当たっては、一年間をかけて何度も練り直しをして、やっと満足のいくものに近い商品が発売するのには先がけ、いろいろイベント等でご紹介させていただいたところ、予想以上の反響を頂いたのもうれしい驚きです。

新発売の《風水香》で、わが社にも皆様のもとにも、今年こそ、いい気運が舞い降りることができまますように願っております。

風水香監修者 MIREY(ミレイ)氏

ガーリー風水アドバイザー。伝統的な中国の風水学と最先端の建築医学をベースに、スタイリッシュで実用的なアイテムによる環境医療の一環として、「ガーリー風水」を提唱し、注目される。著書は「ガーリー風水」(幻冬舎)他。



▼沈香の選別



ベトナム独特の三角帽子をかぶり水牛の綱を持ってしやがみ込んでいる田園風景を眺めながら

ベトナムでも異な常気象らしく、日本の梅雨の様にしとしとと降り続く日が多いようだ。



▲沈香の加工風景

ベトナムでは、一九九二年頃から自然林の沈香木を伐採することが制限されていた。そして今後ベトナムの沈香を入手することは難しくなるのではと言われていた。しかし沈香栽培の技術が進み、植林沈香から沈香を採取出来る様になり、二〇〇三年頃から政府は栽培沈香の輸出を奨励、CITESを発行するようになった。

ベトナム Vietnam



首都：ハノイ
面積：32万9560km²
人口：8526万人(2007年7月)
言語：ベトナム語

中部高原の大規模な沈香栽培

ダナン市の沈香業者を訪問する。サンプルを見せてもらうが、いずれも栽培沈香である。この会社では、六年前から中部高原の五〇〇ヘクタールの場所に植林、約五十万本の沈香を栽培している。沈香樹も既に直径二十cmになり、来年から木に傷をつけ約五年で採取出来る予定だそうだ。山間部にも沈香業者があるとの事で、車でどんどん山に入ってゆく。途中水田が広がり子供二人が水牛に跨る光景や、老婆がノンラーと呼ばれる

Quang Nam省Nong Son村の業者を訪ねる。

ここでは植林をした沈香木から飾り物を作ったり、あるいは全く香りのない真つ白な木に樹脂を注入し、伽羅風の飾り物(人造沈香)を作っている。業者も人造沈香であると認めている。これが町の土産物店に行けば、数百倍の価格の飾り沈香に化けるから恐ろしい。

訪ねる。ここでは植林をした沈香木から飾り物を作ったり、あるいは全く香りのない真つ白な木に樹脂を注入し、伽羅風の飾り物(人造沈香)を作っている。業者も人造沈香であると認めている。これが町の土産物店に行けば、数百倍の価格の飾り沈香に化けるから恐ろしい。

ホーチミン、フエの業者を巡る

高級線香に欠かせないベトナム沈香は、従来の香港やシンガポール経由では、いよいよ入手が困難となり、現地の状況を調査することになる。最近、堺に移転して来たベトナム領事館の紹介や、インターネットを駆使して現地に入る。

移動列車の旅で、ベトナムの風景を満喫

ハノイからホーチミンまで、一七二五kmを二十九時間三十分で南北を走破するS1列車はベトナム一番の俊足列車。夜十一時にハノイを出発、三日目の早朝四時三十分にはホーチミンに到着。我々はフエからダナンまでの約一〇〇km、約二時間半の短い乗車だ。それでも列車の旅は十分に堪能できた。海に山が迫りその中腹を走る景色は実に素晴らしい。途中列車が牛と衝突するハプニングはあったがほぼ予定通りにダナンに到着。すぐに世界遺産指定の町、ホイアンに向かう。海岸沿いには有名なリゾートホテル、コテージが立ち並び、現在建設ラッシュの最中だ。



フエ王宮 大きな黒(かなえ)が並び、表面にはこの周辺の産物である伽羅、沈香、檀香、桂皮などが彫り込まれている。



スベアミント▶



種類が多く、用途も多様



さわやかな香りでおなじみのミントは育てやすく、使い勝手がいいハーブ。ミントは世界中で自生するシソ科の多年草ですが、交雑しやすく、現在では六百種以上、大きくわけても二十種ほどに分類されます。

その中でもハーブとして最もよく使われているのは、ペパーミントとスベアミント。そのほかにはアップルミント、ブラックミント、クールミントなどが比較的なじみの深いミントといえるでしょう。ミントは古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代から親しまれてきたハーブですが、現在では、アメリカを中心に、ヨーロッパの国々などで広く栽培されています。

ミントはたいへん丈夫で育てやすく、地下茎でどんどん繁殖します。主に楕円形か卵型の葉を持ち、高さは九十センチから一米メートルにも成長します。交配しやすいことから、ミントを栽培するときは単独で植えるようにしましょう。

ペパーミントとスベアミント

ミントを代表するのがペパーミントとスベアミント。お菓子や飲料、化粧品、サプリメントなど多方面に利用されているミントは、ほとんどこの二つだけ。いつても過言ではありません。

ミントの精油は水蒸気蒸留で採取されますが、香りには少しづつ違いがあります。ペパーミントの主な香気成分はメンソールで、爽快な清涼感あふれるクリアな香り特徴。一方、スベアミントはメンソールを含まないため、ペパーミントよりマイルドで少し甘い香りが特徴です。それぞれの香りの特徴を生かした製品も多く、梅栄堂のお線香《ダブルミント香》もその一つ。爽やかで優しい香りのハーモニーが楽しめます。

●商品紹介

風水香

ふうすいこう

いい香りが漂う

と、ころには幸運が...

風水では、「幸運を招くためには、何より心地よい環境づくりが大切」という考えが基本のこと。そのためには、お部屋の香りはとても大切だそうです。そんな考えから生まれたのが《風水香》。選りすぐりの五種の香りで、心地よい環境づくりのお手伝いをいたします。



香りが心や、身体に与える影響は予想以上に大きいもの。お部屋にいい香りを漂わせて、幸運を呼び込んでみてはいかがでしょうか。

●話題

旅。職人の街・堺へ

最近では、「日本文化を見直す」ことがブーム。雑誌・The ROYALでは、『リーガロイ香は「ものづくり」の代表。創業明暦三年の老舗・梅栄堂を訪れたレポート』は、斬新な《残香飛》や《はちみつ香》の存在を知り、脈々と受け継がれる堺職人の進取と工夫の精神を再認識されていました。

辛抱強く

日刊工業新聞(九月二十八日)では、コラム《テラス》で『今年もニューヨークの展示会に出品するが、事業の柱になるのには十年はかかる』と述べる中田社長に対し、「泰然自若の中に、老舗企業の貫禄を垣間見る」と評されました。

ふるさと探訪

ライオンズクラブの六月号「ふるさと探訪」では、「香り文化」を花咲かせた堺線香特集。「香りは心に残るもの」と

ヤルから始まる旅」のページで、中世から栄えた「ものづくりの町・堺」が特集されました。貿易港から入ってくる漢方薬を原料にして生まれた線

考える梅栄堂の中田社長が取材を受け、堺の歴史とお線香の発祥の話、香木を原材料にする線香作りの過程や、今後の香り産業としての考えなどをお話させていただきました。

リラックスタイム

快感を得るには、緊張した後に弛緩することが必要だそうです。MONOマガジンではリラックスクスグズの特集で、梅栄堂の《ダブルミント香》を取り上げ、ペパーミントの爽やか感と、スベアミントのリラッククス作用を併せもったお香として紹介されました。

